

医療現場の現実 No.1

当直の現実

—— 現場医師の24時間から医師像を問い直す

今日のゴール：「医師の仕事」のリアルな現場——当直という制度の意味・医師の疲弊・医療安全との関係を理解する。「医師になりたい」という動機を、現場の現実を踏まえた「覚悟」に深化させ、面接・小論文で「現場を知っている」受験生として答えられるようになる。

この授業の問い

1. 「当直」とは何か？研修医・専攻医・指導医それぞれにとってどんな意味を持つか？
2. 睡眠不足と医療ミスとの関係を、データを使って説明できるか？
3. 医師の働き方改革とは何か？何が変わり、何が課題として残るか？

※ 授業後にもう一度この問いを見て、答えを書いてみよう。

■ 受験生が知らない医療現場の現実

受験生のイメージ	現場の現実
医師は患者と向き合う仕事	当直明けも通常業務が続く「32時間連続勤務」が普通だった
医師は高給で安定している	研修医の当直手当が最低賃金を下回るケースもあった
失敗しない医師が良い医師	疲弊した医師によるヒューマンエラーは構造的課題
医師不足は田舎だけの問題	都市部でも救急・産科・小児科は深刻な医師不足
医師の働き方改革は完了した	2024年から規制が始まったが課題は山積み

この授業のポイント：「医師像」の理想と現実の落差を知ることは、医学部面接で「なぜ医師になりたいのか」を深く語るための前提だ。現場を知らずに「患者を救いたい」と言う受験生と、現場の課題を知ったうえで語る受験生では、採点者の印象が全く違う。

採点者の視点

採点者はここを見ている —— 当直の現実・現場医師の24時間で合格答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ答えでも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しい答えを出していても、なぜそう考えたのかが見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

当直の現実・現場医師の24時間では、*医療現場の構造的課題の根拠*が答案の質を大きく左右します。

② 当直の現実・現場医師の24時間で採点者が見ているポイント

「当直医の業務実態から医師の働き方改革の課題を論じた答案」が採点者に「現場を理解している」と映る

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。答えを出すだけでなく、根拠を一文添える習慣を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「答えが出るか」ではなく「思考の構造を説明できるか」です。この授業で習得する「上から俯瞰する」視点は、あらゆる試験形式に通用します。

続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所